



月刊 千葉労働

国鉄千葉動力車労働組合

〒260 千葉市中央区要町2番8号(動力車会館)
電話 (鉄電) 千葉 2935・2936 番
(公) 043 (222) 7207 番

'96.2.21 No. 4345

貨物3月ダイ改交渉 その一

合理化阻止へ闘いぬく!

貨物会社の三月ダイ改をめぐる問題は、車扱い(貨車やタンク車など)からコンテナへの転換を通して、八四〇〇キロもの列車キロの削減が第一にあげられます。貨物会社は、片道しか利用のない車扱いを往復活用のできるコンテナ車へ転換することを強引におし進めてきました。また貨物扱い駅の集約化を行い、千葉地区では新茂原、千葉貨物ターミナルでの貨物扱いの廃止と村田駅(京葉臨海鉄道)への集約を行なっています。これは全国的に展開されており、大幅な列車キロの削減と相まって、はじめて大幅な乗務員削減を開始しました。

これは、二年続きの赤字決算を出した貨物会社が「フレイト二一」と称する「中長期計画」＝リストラ攻撃の第一段階(緊急三カ年)の仕上げに位置しており、今後このコンテナ化と貨物駅の集約はより強まると思われまます。
さらに千葉地区的には、次々期ダイ改(来年春)に貨物輸送ルート(総武線から京葉線への移行)があります。蘇我から発車する列車が、現行の総武新金(常磐)武蔵野というルートから京葉武蔵野というルートに変わる計画で、周辺自治体交渉等がすでに始まっています。こ

これは新小岩機関区の蘇我移転にとどまらず、千葉地区の貨物職場全体の問題となります。三月ダイ改をその闘いのスタートとしていかなければなりません。貨物協議会は、二月七日第一二回役員会で、三月ダイ改に対する申し入れを検討し、動労千葉一七号にまとめ、貨物関東支社へ申し入れしました。二月三日にその交渉が行なわれましたが、回答自体は何ら具体的な内容のものではありませんでした。二月二〇日に第一三回役員会を開催し、今後さらに闘いを強化していくことを確認しました。

「車・技分科は団結して頑張ろう！」



車両・技術分科 定期委員会開催

二月一六・一七日の両日、館山市・静海荘において、第七回車両技術分科会定期委員会が開催され、東日本、貨物のやみくもな検修関係合理化、職場での闘いの構築に向けて討論を交わした。

委員会は、鈴木常任委員の司会で始まり、議長に幕張支部・繁沢君を選出して議事が進められた。

冒頭、斎藤分科会長は「本委員会での意見を集約し、JRにぶつけて労働条件の改善をはかろう」とあいさつし、次に本部

・田中書記長より、揺らぎはじめた「JR体制」の現状や政府・運輸省で問題にされた「平成九年度問題」、清算事業団解散問題、年金問題等について情勢も含めて報告された。

議事にうつり、経過・会計報告・当面する取り組み、予算(案)が提起され、質疑応答に入った。

質疑では、着水警報での緊急呼び出し問題について、派出の夜間二人体制の実現、四両編成列車の解消、佐倉・成田に派出検査が必要ではないか、次期ダイ改での要員削減について、気動車のフランジの磨耗が激しい、本区・派出も含めて予備品が

なく対応できない、銚子駅留線の昇降台の設置位置変更、新型ATC検査機器の導入、交換庫照明の改善、木更津交換ピットの拡大など、二日間にわたって有意義な議論が展開された。最後に委員会は、渡辺新会長など九五年度新役員を選出し、渡辺新会長の音頭で団結ガンバロー三唱を行い、車両技術分科会第七回定期委員会は成功裡に終了した。

役職	氏名	支部
会長	渡辺 敏博	タテ
副会長	斎藤 常男	マリ
同	田中 龍美	サク
事務長	成毛 正克	マリ
常任	加瀬 武正	シワ
同	結城 敏之	ツヌ
同	山田 護	マリ
同	小柴 将美	キサ
同	島田 喜彦	ケヨ
同	石井 誠二	タテ
会計	星 和信	マリ